

日本マクロエンジニアリング学会第 35 回研究大会開催報告

2019年3月27日(水)、日本工業大学神田キャンパス多目的ホールにおいて、標記研究大会が盛大に開催されました。実は常連の方から「残念だけれども今回は行けなくなった」旨の連絡を10数名からいただき、いつもは30~50部くらい用意するレジメも今回は15部にし、閑散とするかもしれないな~と思っておりましたが、13名の方にご参加いただき質疑応答は特に活発で、危惧とは裏腹に盛況裏に進めることができ、資料も全部使い切りました。ご多忙の折りご協力ありがとうございました。また広報、会場設営、反省会段取り等にご尽力いただきました関係の皆様へ深く感謝申し上げたいと存じます。

開会挨拶 日本マクロエンジニアリング学会

会長 茂木 創

第35回研究大会は15:25定刻を迎え、八木田企画委員長により議事進行されました。

茂木会長より、ローマクラブによる成長の限界から半世紀近くを経、持続可能な社会への関心が高まる折、本研究大会では時宜を得たテーマが揃い、論文/成果が社会の役に立つことを祈念したいと、開会の挨拶がありました。



開会挨拶 (茂木会長)

発表1:「内水面漁業に関する方向性」新田義修 (岩手県立大学)

サーモンの陸上養殖を例に、アンケート、生産/販売技術、ファウンディングなどの考察に基づき、ブランド化への課題、内水面漁業の経営動向と今後の方向性について発表がありました。

内水面漁業は規制の変化が少ないが故に事業環境(売上や単価)もかなり予測可能で、かつ小規模事業者にとっては事業環境を変革することはできない点が、JAMESの学会経営環境と共通しているため、本研究で抽出された内水面漁業の経営戦略がJAMES経営にも参考になりました。



内水面漁業に関する方向性 (新田会員)

発表2:「MDGsからSDGsの時代へ:SDGsがビジネスに与える影響とは?」杉野 晋介 (JCCPM(株))

SRI、CSV、CSR、ISO14001、ISO26000、MDGsの流れを俯瞰の上、SDGsの考え方を意思決定や活動に取り込むことは加速していくと考えられ、SDGsは大きなビジネスチャンスをもたらし、参入のメリットは大きいこと、更にGRI(Global Reporting Initiative)国連グローバルコンパクト、WBCSD(持続可能な開発のための世界経済人会議)などにおけるSDGsの取り込み方法と企業の取り組み例の紹介がありました。

JAMESも学会としてSDGsに関する何らかの認証プロセスに参画できればと考えます。



MDGsからSDGsの時代へ:SDGsがビジネスに与える影響とは? (杉野会員)

発表 3： 「地域社会が“成長の限界”を乗り越えるとき」 - 国土開発、地域開発を越えた“新たな共”の形成 -
鳴尾眞二 ((株)鳴尾総合研究所)

社会と自然の自己再生力の限界、いわゆる成長の限界に直面した社会の選択を考察され、従来の成長・競争を基調とした経済社会(持続可能な経済開発の追求)から成熟・共生を基調とした経済社会(持続可能な福祉社会の追求)、社会変革の挑戦を訴えられました。

具体策として、公共の改革(1. 官から民へ、2. 地方分権化、3. 市民活動の取り込み)、“新たな共”の創造、地域の社会的サービス供給、相互扶助、互酬関係が成立した地域社会を発表者地元の鎌倉を例に紹介されました。



地域社会が“成長の限界”を乗り越えるとき
(鳴尾会員)

発表 4： 「太陽熱低温集熱装置の開発」 - 太陽熱/海洋深層水/低温スターリングエンジンで、低コスト/無
尽蔵なエネルギー/電力 - 辻目英正 ((株)デザインウォーター)

太陽の動きに合わせた構造/制御法、各分野の最先端技術の享受、および地道な最適化(些事に神は宿る)によりエネルギーロスが小さくコストパフォーマンスに優れる太陽熱(低温)集熱装置の発表でした。

海洋深層水冷熱、低温スターリングエンジン(前回のシンポジウムで報告)および提案の集熱装置(反射板高さ 80cm、延長 2m) 8 枚で平均的家庭の電力を自給でき、また日本の電力消費量 1 兆 kWh/年に対しては 13,000km²(日本の国土面積の 3.4%) に 27 億枚の集熱板を並べれば、自給できるとされました。



太陽熱(低温)集熱装置の開発(辻目会員)

総合討論/閉会の挨拶 理事長 角田晋也

活発な質疑応答のあと時間が押ししており、発表者の後片付けと並行して角田理事長より、「太陽熱利用や内水面漁業を通して SDGs を地域社会で実現するプロセスについて引き続き検討したい」と閉会の挨拶がありました。

(時間にとらわれず、発表と質疑応答を気が済むまでできるところが本学会の魅力ではありますが、そうは言っても次回は余鈴を準備したいと存じます。)



総合討論および閉会の挨拶(角田理事長)

反省会：

8 名の有志とイタリアン大衆酒場でワインをいただきながら反省会を開催いたしました。(無理やり研究大会/理事会にご出席いただきました先生方は残業で職場に戻られました。私達だけワインで申し訳ございません。)反省会では、今日の成果を更に発展させ、多くの方を巻き込む魅力を醸成し、人/モノ/カネ/情報を充実し、他学会ではできない総合力/具体性で事業化を推進しようとなりました。

なお、研究大会のレジメは学会 HP、発表の様子は Youtube にアップしてございますのでご参照下さいませ。文責(事務局) トリップリアモツダ神保町店➡

